

広報レポーターが気づいたまちの魅力

住ぶよを
実感

美しい水田の風景が臨める 北部印旛沼干拓地を歩く

千葉ニュータウンを東西に走る国道464号線（北千葉道路）を成田方面に向かい、吉高の交差点を過ぎてまもなく、左手遠く筑波山を背景に印旛捷水路と北印旛沼が現れます。水辺の周辺は整理された水田が整然と並び、水稻の緑が風になびく姿は農業経営が難しいといわれる時代にもなお、美しい田園風景を見せてくれます。北印旛沼周辺は地名に干拓（新田）の名がつくところが多く、この地がこれまで多くの人と労力で開拓された土地であることが分かります。特に栄町との境にある長門川流域は洪水との闘いを乗り越えてきた歴史を持つ肥沃な干拓地です。長門川の堤に、この地が育んだ吉植庄亮・梅子夫妻の墓石が干拓地を見守るように建てられています。吉植庄亮は北原白秋とも親交がある「房総の三歌人」の一人で、大正時代に印旛水門建設に尽力した父親、庄一郎の跡を継ぎ、近代的農法を取り入れた「吉植農場」を開設し、県下でも有数の米生産地として築き上げました。この地を巡るには、印旛沼を周遊する自転車道路が整備されており、郷土の歴史を思いながら、その風景とそこに集う鳥たちの姿を楽しんでみてはいかがでしょうか。



干拓地を見守る吉植庄亮・梅子夫妻の墓石

「印西自転車散歩マップ～田園・水辺空間満喫ルート～」は市ホームページからダウンロード可
閩市商工観光課観光振興係（☎33-4477）

※「房総の三歌人歌碑」は県政100年を記念して1973年に千葉県文化会館前庭に建立。三歌人は伊藤左千夫 古泉千樫 吉植庄亮の3人

マエギるもののない空間が広がる干拓地

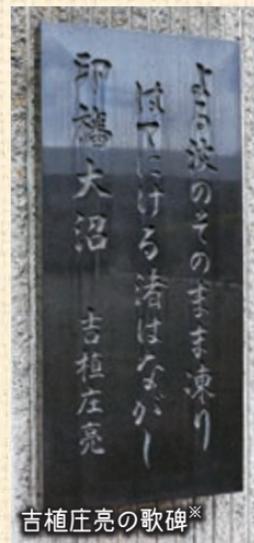


広報レポーター

宇野 建夫（小倉台）



房総の三歌人の歌碑※



吉植庄亮の歌碑※